

笹野マックス

タイ現法、売上高倍増へ

28年めど 日系企業に安定供給

【タイ・バンコク】増岡武秀】非鉄流通の笹野マックス(本社||東京都港区、笹野太樹平社長)のタイ現地法人である笹野マックス・タイランドは、2028年をめどに売り上

げ倍増を目指す。昨年の中国の新型コロナウイルス禍によるロックダウンを受けて、タイに進出する日系企業で現地調達のニーズが高まっている。23年度は需要が高まる農業機械

向けの新規アイテムに力を注ぐ。今後も安定供給の要望を聞き取り、新たな顧客開拓を進める。23年度は前年度比20%の売り上げ増を掲げる。従来品に加え、日系

企業の安定的な部材調達の要望も追い風になるとみる。一方で22年度も堅調に推移した。

タイ国内は半導体不足の影響などもあり、自動車生産台数に伸び悩みも見られ、同国での販売は軟調だった。一方でインド向けの自動車部材需要の伸長に支えられたことで、当初の予想を上回った。同社はタイ拠点を中心に立ち上げた。日本

国内の顧客の要望を受けて、タイでも高い加工精度が求められる製品を日系企業に供給している。設立当初は光学部品やタイで調達が困難な特殊材料の輸入販売を手掛けた。その後自動車部材、通信機器・産業機械などに

向けて拡販してきた。金属材料以外のニーズにも応える。アルミや銅、黄銅、ステンレスといった金属材料に

加え、樹脂やゴム製品など顧客のニーズに応じた営業活動を展開している。

「卸売業の強みを生かせば、売り上げ増の可能性は無限だ」と笹野マックス・タイランドの月田浩司社長は意気込む。足元の半導体不足の影響は不安要素とみるものの、引き続き新たな顧客開拓と販売実績が欠かせないという。